

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和 2 年度事業報告書

令和 2 年度の事業活動に関し、下記の通り報告いたします。

事業環境

令和元年度の末に始まった COVID-19 の影響は 2 度の緊急事態宣言発出を経て継続中である。人の移動制約に伴い、IT の活用によって距離を縮める新たなビジネスモデルの導入が急速に進み、資格・研修・セミナー等の事業においてはニューノーマルな環境への適応が必須の状況となっている。

令和 2 年度の事業計画策定時、当初は令和元年度の大幅赤字計上を受け、収益構造の転換を図ることを第一としていたが、PMAJ 存続上の課題としてニューノーマル対応に優先して取り組んだ。上期前半までにセミナー等のオンライン開催に係る基盤を導入、各種講習会・セミナーや PM シンポジウムのオンライン開催を通して、基本的な運営ノウハウは確立した。

この運営基盤は、今後の地方の会員向けのサービス充実等に役立たせるとともに、収益構造転換の基盤として更なる活用、改善に取り組んでいかねばならない。

1. 全般運営

(1) 総会・理事会等の開催

- A. 通常総会 1 回、定例理事会 5 回をオンラインで開催した。(表 1、表 2 参照)
- B. 運営会議を 11 回オンラインで開催した。(表 3 参照)

(2) 組織に関する件

A. 新役員選任

6 月 25 日(木)開催の定時総会において退任に伴う交代として理事 1 名が選任された。

(3) 業務運営体制

令和 2 年度は、前年度の大幅赤字を受けて事業部門を 3 部門として収益目標管理を強化した。COVID-19 の影響下をこの体制で臨み、経費節減等に注力して赤字回避にも寄与できたと思われる。しかしながら、会員数、資格保有者数を増加傾向へ転じるという目標を達成するには、力不足の感が否めなかった。

年度の後半に入り、理事会の間でも協議した結果、当協会の原点に戻り、理事を中心とした業務遂行体制とする必要があるとの結論に至った。2021 年 6 月は現状の理事の任期が到来することから、改選後の理事によって新体制を構築していくことになる。

2. 事務管理部門（全体統括、バックオフィス）

(1) 法人会員

法人会員の増強施策を実施し正会員 10 社増を目標として活動を実施する予定であったが、まったく実施できず、結果として減少傾向に歯止めをかけることができなかった。

A. 法人会員の集い

COVID-19 対応でオンライン開催とし、久保 裕史理事による講演を行った。

参加者は事務局を含め 45 名。

B. PMAJ 法人会員・個人会員新春の集い

COVID-19 対応でオンライン開催とし、広島修道大学佐藤達男教授による講演を行った。

法人会員及び個人会員を対象とし、参加者は事務局を含め 100 名。

C. 法人会員フォーラム、社会人のための PBL（プロジェクト型学習）

応募がなく開催中止とした。募集案内を出した後の勧誘活動不足が要因。

(2) 個人会員

有効な手立てを講じることができず、減少傾向が継続。

【会員数】

	令和元年度末	令和 2 年度計画	令和 2 年度末
法人会員	86 社	96 社	89 社
法人正会員	70 社	80 社	73 社
法人賛助会員	1 社	1 社	1 社
法人特別会員	15 社	15 社	15 社
個人会員	991 名	1,100 名	939 名

【会員会費収入】

単位：千円

	令和元年度実績	令和 2 年度計画	令和 2 年度実績
個人会員会費収入	6,291	6,705	5,959
法人会員会費収入	8,658	8,808	8,948
[入会金・会費収入計]	[14,949]	[15,513]	[14,907]

(3) グローバル対応

従来 PMI® PDU の発行手続きは ENAA/PMAJ として行っていたが、PMI® のシステムが変更となったことから、PMAJ 単独で PMI® の Authorized Training Partner (ATP) 認証を受け、独自に手続きを行えるようにした。

(4) 部会・SIG 活動支援

COVID-19 下においても各部会の会合ができるよう、部会・SIG 専用のオンライン会議環境の提供を開始した。

また、部会・SIG の相互連携を図るべく、「部会 SIG 合同連絡会」を立ち上げた。

今後、活動をアピールする場の提供等をとおして幅広い会員の参加促進や、円滑な運営・活性化に役立つ情報ツールの提供等検討していく。

(5) 第 7 回 PMAJ 表彰

プログラム・プロジェクトマネジメントの分野において優れた講演、活動、貢献をされた個人およびグループ（法人含む）を毎年顕彰してきた。

今年度は 7 回目となり、9 月 10 日開催の PM シンポジウム 2020 開催に先立ち、表彰式を執り行い、「優秀貢献賞」1 名 1 社（法人会員企業）「優秀講演賞」1 名「PMAJ 特別賞」1 名の計 4 名（社）を表彰した。

(6) 固定費の削減

事務推進態勢の見直しによる固定費の削減

A. IT 活用による業務の効率化

COVID-19 対応として各種会議をオンライン会議に切換、会議費・交通費等が削減となった。

セミナー・講習会の申込が全国にまたがることから、ホームページの見易さを改善するため、インデックスページの組込み等の対応を実施した。

B. 外部サービスの見直し

参加費徴収代行業者の利用、ネット銀行の採用等を実施した。

(7) 新型コロナウイルス感染拡大への対応について

A. 事業継承対策

リモートでの会議や講習会・セミナーを可能とすべく、必要な機器の導入を進めた。

B. 持続化給付金・家賃支援給付金

令和 2 年 5 月の事業収入が、前年同月（令和元年 5 月）に比べて 50%以上減少したことから、持続化給付金、家賃支援給付金及び東京都家賃支援給付金を申請し、給付を受けた。

持続化給付金	2,000 千円
家賃支援給付金	3,395 千円
東京都家賃支援給付金	212 千円
計	5,607 千円

(8) 寄付

PMAJ の活動に賛同する方向けに、寄付の募集ページをホームページ上に掲載した。

A. 「P2M 標準ガイドブック改訂」活動への寄付

使途を「P2M 標準ガイドブック改訂」に限定した寄付の申し出があった。

寄付金額 5,000 千円

3. 資格研修センター（資格試験、講習会）

(1) パイプラインマネジメントの推進

資格ごとに個別に管理されていた資格者情報（PMC、PMSp、PMS、PMR）を一元管理（資格履歴、受講履歴、他資格情報、CPU 情報等）するデータベースを整備した。

これを基に既存の資格者への資格更新勸奨等を実施、来年度以降更なるデータベース管理項目の充実と活用を図っていく。

A. 既存の PMS 資格者へのサービス提供

資格期限の半年前に、CPU 取得状況と CPU 取得に役立つ PMAJ 主催の講座やセミナー等の紹介メールを配信し、スムーズな資格期限更新を促進した。

(2) 資格試験

COVID-19 の影響により受験者が大幅に減少した。年度初めは、閉鎖する CBT 試験会場もあり受験者が殆ど集まらず、受験者数が回復してきたのは年度終盤になってからである。

A. PMS、PMSP、PMC

年度終盤に増加したが、応募者数実績は計画未達となった。

PMP 資格者等に対する PMS 資格取得勧誘資料を作成し、P2M 資格を社内推奨資格とする企業での PR を図る等の施策を実施するも、十分に浸透させられなかった。

引き続き、資料及び PR 方法の改善を図る所存である。

B. PMR 一次試験論述試験の CBT 化

CBT による試験を行うことで受験者を募集し、6 名の応募を得た。東京地区以外の希望者が過半を占め CBT 化による効果を確認できた。

来年度以降、この実績をアピールして更なる受験者増に繋げていく。

【応募者数】

単位：名

資格試験種類	令和元年度 実績	令和2年度 計画	令和2年度 実績	令和2年度 合格者実績
PMS 資格試験	102	120	97	51
PMS プログラム試験	85	100	67	39
PMS 計	[187]	[220]	[164]	[90]
PMC 資格試験	406	430	317	242
PMR 資格試験（一次）	5	8	6	6
PMR 資格試験（二次）	8	6	6	6

(3) P2M 講習会

COVID-19 の影響により受講者が大幅に減少した。年度初めは、社員の講習会参加を禁止する企業が相次ぎ、受講者数が最低人数を満たさず中止とせざるを得なかった。

オンライン開催及びオンライン・会場併用のハイブリッド開催に切り替え、年度終盤になって漸く、受講者数が回復してきた。

A. PMC 講習会、P2M プログラムマネジメント知識習得講座

運用改善（会員対象割引制度の導入等）、テキストの価値向上（重要箇所の明確化）を実施して応募者の増加を図ったが、参加者数は大幅な減少となった。

COVID-19 の影響でオンライン開催の講習会に参加せざるを得ない状況が続いているが、会場開催を望む声も根強くあり、令和 3 年度は引き続きハイブリッドでの開催を継続していく。

B. P2M プログラムマネジメント実践研修

内容一新（1 日研修化等）を行ったものの応募実績が挙がらなかった。本講座のメリット（資格維持、上位資格取得等に効果）を十分に伝えきれていないことが理由と考えられ、令和 3 年度は一旦特別講座の扱いとして情宣の仕方、運営方法等見直すこととする。

(4) その他講習会

A. PM 研究・研修部会の講座（表 6 参照）

B. 特別講座（表 6 参照）

(5) 新たな講習形態への取組みについて

既存の講習会録画を利用して知識エリア別のミニ動画を作成し、ネットユーザーといわれる層をターゲットとしたオンデマンド配信（有料）事業に試行的に取り組んだ。徐々にではあるが成果が現れつつあり、この層を対象とした講習事業の更なる展開を図っていく。

【受講者数】

単位：名

資格種類	令和元年度 実績	令和 2 年度 計画	令和 2 年度 実績
PMC 講習会 (PMAJ 主催)	52	70	36
〃 e ラーニング	328	330	210
P2M-プログラムマネジメント 知識習得講座 (PMAJ 主催)	14	26	9
〃 e ラーニング	51	70	20
P2M-プログラムマネジメント 実践研修	4	14	0
PMR 養成研修	7	7	5

<資格研修センター収入>

	令和元年度 実績	令和 2 年度 計画	令和 2 年度 実績
受験料・資格登録料	19,699	21,156	17,572
P2M 講習	9,263	13,364	7,098
PM 一般研修	3,328	2,687	2,433
資格研修センター計	32,290	37,207	27,103

4. 事業推進部（PM シンポジウム、各種 PM セミナー）

(1) PM シンポジウム及び PM セミナーの参加者

COVID-19 対策としての無観客・オンライン開催に取組み一定の成果を得た。

今後、シンポジウム・セミナーの対象が全国に拡がっていることを前提に広報の仕方等さらに工夫し、魅力を高めていかねばならない。

A. PM シンポジウム

申込者数 1,355 名と前年比 21 名減少したが、延申込者数は 2,456 名と前年比 186 名の大幅増と過去最多になった。これにより、延申込者数は 7 年連続で増加となった。事前に録画した講演をオンデマンド配信したことにより開催日当日に参加できなかった層が参加できるようになったこと、困難な状況下において実施に際しボランティア実行員会の用意周到な準備・運営に尽力いただいたことがその要因である。

B. 産学官 PM セミナー、新春 PM セミナー、地域 PM セミナー

東京及び大阪で開催したセミナー（産学官・新春・関西沖縄合同）は申込者数目標未達となったが、他は参加者数が大幅アップとなった。

オンライン開催に伴い全国から参加できるようになり開催地以外からの参加者数が増加した一方で、開催地周辺からの参加者数が減少しており、東京・大阪では減少分を十分にカバーできなかった。今後、開催地周辺からの参加を促すべく、会場開催を併用するハイブリッド開催にも取り組んでいく。

(2) 講演コンテンツの有効活用

PM シンポジウム及び PM セミナーでの講演動画を会員向けに公開するサービス「動画アーカイブス」を令和 3 年度から開始するよう準備している。すでに、2 月から、試行版をホームページ上に公開しており、PM シンポジウム 2020 の講演から毎月 6 編ずつ公開する予定である。

(3) 地域 PM 研究部会活動

東北 PM 研究部会では東北 PM セミナーを中断していたが、部会代表に尽力いただき 7 年ぶりに復活開催を果たした。

(4) 例会活動

COVID-19 の影響で、4 月の会を中止した。5 月以降は、オンライン開催に切り替えるとともに、東京地区と関西地区で交互に開催することとした。また、参加費徴収を代行業者に委託して、受付業務の簡素化を図った。

A. 東京地区（表 7 参照）

B. 大阪地区（表 8 参照）

<事業推進部収入>

	令和元年度 実績	令和 2 年度 計画	令和 2 年度 実績
PM シンポジウム参加料等	36,536	36,000	37,906
その他セミナー参加料等	7,926	8171	8,649
事業推進部計	44,462	44,171	46,555

5. 教育推進部（企業・団体向け講習会、グローバル事業）

(1) 教育推進

COVID-19 の影響で、大学、団体研修の全ての講座が中止になり、オンライン講義への切替を図れた一部団体においてのみ実施した。

オンラインでは対応が難しく中断していたインストラクター講習について、関西研究会 KP メンバー8名を対象に実施した。

(2) グローバル推進

COVID-19 の影響で PMI® Global Congress, KPMA との交流は中止となった。

Facebook (NIN2.P2M)の記事掲載を継続実施した。

<教育推進部収入>

	令和元年度 実績	令和2年度 計画	令和2年度 実績
企業・団体・大学研修	4,609	5,190	1,672

表 1. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2020.6.25	通常総会	418名	令和元年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和2年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件 定款変更の件	可決 可決 可決 可決

表 2. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2020.4.21	定例	39名	令和元年度事業報告(案)と決算見通しについて 令和2年度事業計画(案)と予算(案)について PMAJ 2020年度組織および責任者について PMシンポジウム2020開催について	承認 承認 承認 承認
2	2020.6.4	定例	46名	令和元年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和2年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員候補者選任の件 PMシンポジウム2020進捗状況について	可決 可決 可決 承認
3	2020.10.22	定例	41名	令和2年度上期事業報告 PMシンポジウム2020完了報告	承認 承認
4	2020.12.17	定例	41名	令和2年度第3四半期及び通期の事業見通しについて 事業活動活性化策検討に係る調査の実施について PMシンポジウム2021進捗状況について	承認 承認 承認
5	2021.3.18	定例	43名	令和2年度事業見通し及び令和3年度事業計画について PMシンポジウム2021進捗状況について 「部会・SIG合同連絡会(仮称)」について	承認 承認 承認

表 3. 運営会議

回	開催日	備考	回	開催日	備考	回	開催日	備考
1	2020.4.14		5	2020.9.15		9	2021.1.19	
2	2020.5.19		6	2020.10.20		10	2021.2.16	
3	2020.6.16		7	2020.11.17		11	2021.3.16	
4	2020.7.21		8	2020.12.15				

表 4. P2M 資格試験 (CBT 試験) 実施状況

(名)

	PMS			PMS プログラム			PMC		
	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者
5月							17	13	7
6月	18	16	8	11	11	6			
7月							31	29	25
9月							48	44	29
10月	21	18	13	23	22	14			
11月							52	50	36
1月							81	78	41
2月	58	54	30	33	30	19			
3月							88	82	39
合計	97	88	51	67	63	39	317	296	177
累計	11,528	10,709	5,237	1,208	1,134	724	5,512	5,183	3,585

* 合計：年度合計人数、累計：試験初回実施以降の総累計人数

表 5. P2M 講習会実施状況 (受講者数推移) (名)

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	P2M プログラム 実践研修	P2M 実践力 養成研修
5～6月	5	1	0	—
7～8月	5	2	0	—
9～10月	7	2	0	5
11～12月	9	4	0	—
1～2月	3	0	0	—
3月	7	0	0	—
計	36	9	0	0

表 6. PM 一般研修 (名)

区分	開催日	テーマ等	参加者
PMP®試験対応講座	6.28	1日演習コース	4
	9.26～10.17	4日間コース	7
	10.24	1日演習コース	3
PMBOK®ガイド基礎講座	9.19	基礎レベル・実践の視点で概観	3
	1.30	〃	10
PM 研究・研修部会セミナー	1.15	PRINCE2 Agile 概要紹介 (その 1)	12
	2.19	PRINCE2 Agile 概要紹介 (その 2)	12
PMAJ 特別講座	6.3～24	PM が身に着けておくべきフレームワーク	4
	7.17	PM 成功ノウハウを見える化し伝える技法	7
	12.4	プロジェクト・マネジャーのための DX 知識	3
	2.12	PM 成功ノウハウを見える化し伝える技法	9

表 7. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
258回	5.22	米澤 徹也	PM 標準の最新動向について	80
259回	6.26	高野 敦	ハイブリッドロケット開発・打ち上げ	63
260回	7.17	菊池 健一	大型電波干渉計「アルマ望遠鏡」	40
261回	9.25	姜 理恵	不確実性の高い時代に資する起業家的な思考と行動	28
262回	10.23	田原 真人	オンラインを活用した参加型ムーブメントの活動デザイン	23
263回	12.18	向後 忠明	多様なプロジェクト経験からの学習	26
264回	1.22	岸良 裕司	ソフトウェア品質崩壊はどこから来るのか?	37
265回	3.26	吉野 良成	PM シンポジウムのウェビナー化とリスクマネジメント	33

* 第 258 回はオンライン開催初回につき参加費無料

表 8. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
153回	8.28	森口 真希	HORIBA 流ダイバーシティマネジメント	41
154回	11.27	河野 太基	不確定で予想のつかない領域への挑戦	34
155回	2.26	大槻 滋俊	起業による新規事業の展開	24

表 9. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
67号	4月	新春 PM セミナー2020/投稿レポート
68号	8月	投稿レポート/PMR 資格試験挑戦記
69号	12月	PM シンポジウム 2020